



城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.11

2026.1.9

発行 城東中学校長

TEL 26-7022

2025年度学校マニフェスト学校自己評価について

2学期末に、生徒及び保護者の皆様に本校の教育活動推進のためのアンケートにご協力いただきました。これをもとに、学校マニフェストの達成状況等をお知らせさせていただきます。なお、達成率(%)はアンケートにお答えいただいた回答の4つの選択肢(A:よく当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:まったく当てはまらない)のうち、肯定的な回答(A+B)を示しています。

1. 学校マニフェストの達成状況

☆「つながる」《人権・同和教育の推進》…生徒一人ひとりが、周りから大事にされていると実感する集団づくりをめざし、自尊感情を高める

○学級等で自分の思っていることや考えていることが言える【生徒質問No.2】

81%(22年度)⇒81%(23年度)⇒82%(24年度)⇒83%(25年度)

目標値85%

○今の自分が好きと言え。または自分にはよいところやがんばっているところがある【生徒質問No.1】

86%(22年度)⇒83%(23年度)⇒84%(24年度)⇒83%(25年度)

目標値85%

☆「わかる・できる」《学力の向上》…目標をもたせ、その実現に向けて家庭学習を習慣化させるとともに、分かる授業の創造を目指し授業改善に取り組む

○授業がよくわかる【生徒質問No.6】

94%(22年度)⇒95%(23年度)⇒94%(24年度)⇒92%(25年度)

目標値90%

○平日2時間以上、休日4時間以上家庭学習に取り組んだ【生徒質問No.12】

47%(22年度)⇒57%(23年度)⇒49%(24年度)⇒48%(25年度)

目標値60%

○自分の設定した目標時間以上、読書をする事ができた【生徒質問No.18】

51%(22年度)⇒46%(23年度)⇒43%(24年度)⇒48%(25年度)

目標値60%

☆「である」《キャリア教育、地域との連携》…出会い・体験学習を通して、気づきと感動を大切にしたい取り組みを進め、将来への夢や目標をもって生活する力を育てる。

○人権学習や体験学習を通して、自分を見つめ生き方について考えた【生徒質問No.4】

96%(22年度)⇒97%(23年度)⇒95%(24年度)⇒93%(25年度)

目標値95%

○体験学習や人との出会いの機会を通して、将来の夢や目標がもてた【生徒質問No.5】

73%(22年度)⇒78%(23年度)⇒69%(24年度)⇒84%(25年度)

目標値80%

2. 学校自己評価結果と分析

「つながる(人権・同和教育)」、「わかる・できる(学力向上)」、「である(キャリア教育)」を3つの柱とし、この3つを連携させ、教育相談を大切にしたい教育をすすめています。

「つながる(人権・同和教育)」については、よりよい人権社会を作っていく力を育むことを目標に、人権課題を社会の問題としてとらえた学習を進めています。また、家庭訪問や教育相談により、自尊感情を育めるよう努めてきました。人権学習では、できる限りゲストティーチャーをお招きし、講師の体験や考え方に触れることで、自らの考えを深める機会にできました。また、発達段階に応じた教材配列を作成し、部落問題、障がい者問題、性の多様性、多文化共生、平和学習等、各学年で取り組む単元を定めました。さらに、「ヒューリアみえ」の協力を得て、「マジョリティー特権」等の学習を進めています。今後も、学習後の教育相談を大切にしていきたいです。

「わかる・できる(学力向上)」については、「サポートする教師の指導力向上」「学習者の意欲の向上」の2つを課題としました。教師の指導力の向上については、伊賀市教育アドバイザー及び県学力向上アドバイザーに來校いただき、新規採用教職員や経験年数の少ない教員と数学少人数指導を中心に指導していただきました。また、教職員相互の授業参観を行い、学び合う職員集団づくりに努めています。生徒が「できる」ようになるためには、家庭学習の充実が必要であることは伊賀市学力向上検討委員会から長年指摘されていることです。生徒アンケートの結果、今年度も、3年生の家庭学習時間については向上していますが、1・2年生は、習慣化及び1日の学習時間とも課題がみられました。課題克服のために、各教科から学習課題を提示し、家庭学習の日常化に取り組みました。また、マイスタノート活用の好事例を提示し、生徒の意欲向上に努め、家庭学習時間確保をめざしてきました。ただ、スマートホンの使用時間等との相関関係も指摘される中、家庭学習の時間を増やすことがなかなかできていない状況にあります。また、余暇の過ごし方として読書をすすめています、定着していません。

「であう(キャリア教育)」については、2年生の職場体験学習を実施しました。また、修学旅行、文化祭、体育祭など他の大きな行事も、ほぼ通常通り実施できました。生徒のキャリアビジョンを形成するため、学校にお招きした様々なゲストティーチャーの方に、どのような経緯で今の仕事に就かれたのかを話していただくよう依頼しています。

様々な行事や体験学習を行っています、全ての活動で、生徒一人一人が何を感じ、何を考え、どう行動したかを、より具体的に担任を中心とした教師と話すことが、最も重要な取組であると考えています。また、このことが学習意欲の向上についても、重要だと考えます。

今回の生徒アンケートでは、昨年度課題であった「体験学習や人との出会いの機会を通して、将来の夢や目標がもてた」の項目結果が目標値を上回りました。1年生からキャリアビジョンを持たせるための進路指導、教育相談といった取組を、今後も続けていきます。

3. 学校改善の方向性

より良い社会を作るため、課題を見つけて仲間と共に解決していける人になれるよう、学力・人権・キャリアの3側面の融合した取組が今後も大切であると考えています。

(1)「つながる(人権・同和教育)」

- ・生徒、家庭、教職員がつながるために教育相談を行い、家庭訪問を進めます。
- ・マジョリティー特権、SDGsなど新たな人権学習の教材化をより進めます。
- ・人権問題を教師自身が自らの課題と捉えられるよう、様々な研修の機会を活用します。

(2)「わかる・できる(学力向上)」

- ・経験の浅い教職員の指導力を向上させるため、伊賀市学力向上アドバイザーを招聘します。
- ・分かりやすい授業を創造するため、ICT機器の有効活用を促進します。
- ・定期テスト、実力テスト等の問題で、基本と応用の比率を適正に実施できるよう常に改善に努めます。
- ・家庭学習の内容改善を図ります。また、家庭学習の内容や時間について学習相談を行います。
- ・教育相談で、余暇の過ごし方の助言の中に、読書についてのアドバイスを入れます。

(3)「であう(キャリア教育)」

- ・キャリアビジョンをもたせるための教育相談(キャリアカウンセリング)を行います。
- ・1年生から進路学習を充実し、高校卒業後の将来目標を持たせます。
- ・体験やゲストとの出会いを生かし、生き方や進路について考える機会を充実させます。

(4)その他

- ・生徒が過ごしやすい学校にするため、引き続きハイパーQ.Uを2回実施します。
- ・職員間の情報共有及び管理職への報告体制を充実します。
- ・生徒に望ましい勤労者としての姿を示せるように、教職員の働き方改革を引き続き進めます。
- ・OJTで、若い教職員を育てます。